



職員の人材育成と人事評価の重要性
創新海クラブ 市川 洋一

問 地方公務員法の一部改正に伴い、人事評価制度が平成28年4月から施行されました。この内容は、業績評価と能力評価に分かれております。業績評価では目標管理手法を活用し、能力評価も業績達成をなすために能力レベルを評価し、指導、育成に活用するということです。今の職員の育成計画と人事評価において、目標管理制度の導入に伴う課題は何か、認識を伺います。

また、職員の小集団自主活動も、行政サービスの質の向上や相互啓発の喚起という点で必要ではないかと思えます。これからの人材育成計画について説明を求めます。

答（市長）：人事評価は、職員の能力育成などのツールとして活用しています。ルーティンワークの目標設定は難しいと思いますが、どんな視点で仕事をするかだと思います。人材育成は、時代の変化に適応できる高い能力と意欲を持った職員の育成を目的としています。職員が生き生きと働くことで、市全体が前向きになっていくと思います。

答（市長室長）：人事評価では、目標設定や業績、能力の評価にばらつきがあり、制度のさらなる研修を行うことが課題だと認識しています。

人材育成では、今後避けて通れない人口減少、少子・高齢化、大規模災害への対応など、現状を踏まえつつ先見性を持ち、緊急時に自主的に行動できる人材を育成するなどの見直しも必要と考えています。

その他の質問

・まちづくりに関連した制度の条例化について



児童虐待対策について
いちのこの会 西田 ひろみ

問 子どもの健やかな成長を促し人権を保護することは、親とともに行政の責務です。当市の児童虐待件数は、2011年の25件から2015年の77件と急増しています。国は児童福祉法を改正し、急増する児童虐待へ強化策を打ち出しました。市は子どもを守るネットワーク協議会（要保護児童対策地域協議会）を中心に児童虐待に対応していますが、それぞれの機関とのさらなる連携が必要です。

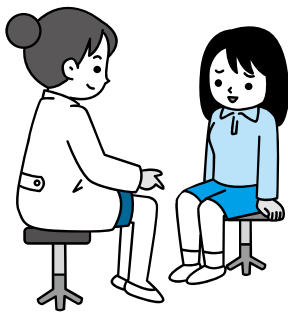
①学校とスクールソーシャルワーカー（SSW）との連携について②児童相談所からの引き継ぎをし、庁内の連携を図るための児童に対する支援拠点の設置について③昨年6月に国分南に県が委託する「里親センターひこばえ」の開所により、子育てが困難な場合の選択肢として里親制度があることの情報提供とともに、里親のなり手として市民へ啓発していくことの連携について、市の見解を伺います。

答（教育長）：①学校では子どもリスクアセスメントシートを使い、児童虐待の状況を把握し対応しています。SSWによる子どもや家庭との関わり効果は非常に高く、今後さらに活用していきたいと考えています。

答（保健福祉部次長）：②必要な連携は常時行っています。国が進めようとする支援拠点の詳細が確定した段階で、他市等の動向も踏まえて、設置の必要性を考えていきます。③里親事業は県の所管ですが、協力できる部分には対応し、市民から相談があれば随時紹介していきたいと考えています。

その他の質問

・男女共同参画と障がい者の視点に基づいた災害時の避難所の開設・運営について



高齢者の移動手段について
公明党 戸澤 幸雄

問 今後高齢者の方の数が増加していき、地域包括ケアの進展とともに、在宅での診療や生活支援を充実していかなくてはならないと同時に、外出支援についても充実していくべきだと思います。そういった意味で、今あるぬくもり号の役割は、今後さらに重要になっていくものと思います。そこで、ぬくもり号についての現状と今後の課題についてどのように考えているのか、伺います。

答（市長）：高齢化が進み、買い物に行けない方や重い物を持って歩けない方が増えています。東柏ヶ谷や国分寺台をはじめバス停が遠いとか山坂が大変という場合、軽自動車や乗用車での運行でもいいと思います。また、現在は無料ですが社会福祉協議会への寄付など、ある程度の負担をお願いする時代になってきていると思います。

2025年問題をクリアするため、今の段階から、高齢者の外出支援について充実を図る方法論や費用対効果、費用の問題についても社会福祉協議会と相談しながら検討していきたいと思っています。

答（保健福祉部次長）：4ルート、5台のワゴン車の運行が高齢者や障がい者の移動手段として定着してきており、昨年度は3万24人、1日平均103人の利用がありました。車両更新による乗車定員の増、要望に応じた乗降場所の新設などの改善を行ってきましたが、今後も地域の実態などを運行に反映できるように、事業の検証を行ってまいります。

その他の質問

・公職選挙法改正について
・防災について



ぬくもり号